

平成19年度 | 一般会計の決算

いしかりの財政状況

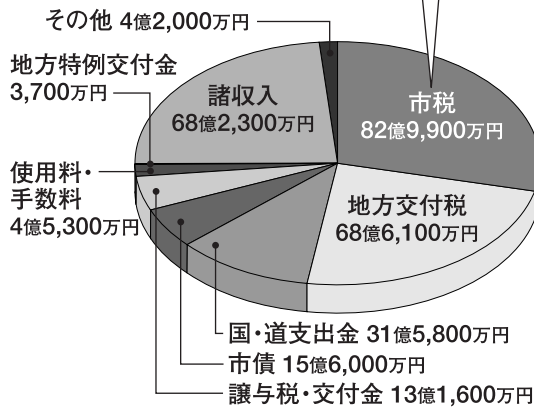
歳入総額=289億2千万円

※前年度 320億円
(対前年比 借換え分除き △1.9%)

Point

- ・**市税** 所得税から住民税への税源移譲により前年に比べ7億4,000万円の増加となりました。
- ・**地方交付税** 頑張る地方応援プログラムの算入など普通交付税の増により1億7,600万円の増加となりました。
- ・**市債** 低利なものへの借換え1億1,800万円と交付税の振替の臨時財政対策債6億9,200万円を除くと7億4,900万円となっており、財政再建計画に基づいて発行額を抑制しています。
- ・**繰入金** 18年度は収支不足を補うため基金(預金)から4億8,000万円借入れていましたが、19年度は行いませんでした。

都市計画税(6億7,600万円)の充当先
 ・公園事業 0.1% ・下水道事業 2.1%
 ・公債費 97.9% (街路、公園、下水道)
 入湯税(1,050万円)の充当先
 ・消防施設等の整備 8.6%
 ・観光施設の整備 38.0%
 ・観光振興 53.4%



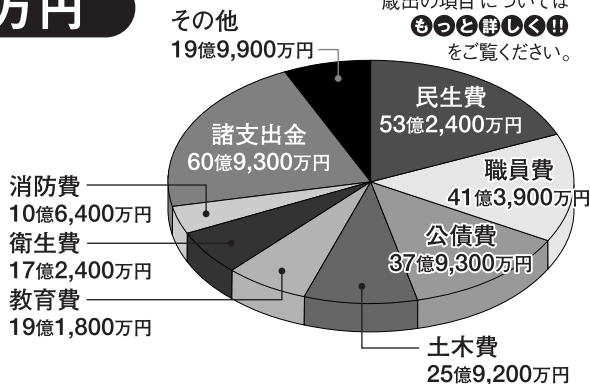
歳出総額=286億4千万円

※前年度 318億7,000万円
(対前年比 借換え分除き △2.5%)

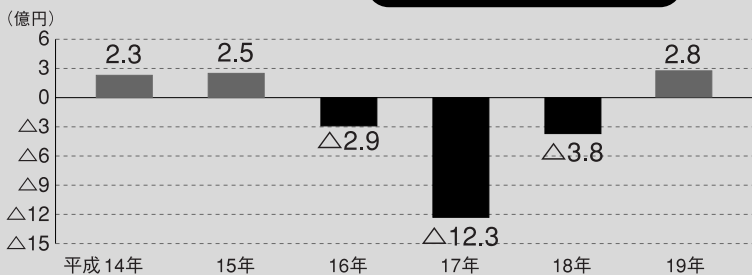
Point

- ・**教育費** 南線小学校増改築事業など建設事業費の減により前年に比べ4億7,000万円の減少となりました。
- ・**公債費** 借換え分だけで25億4,000万円と大きく減少しており、それを除いた実質でも前年に比べ3億9,200万円の減少となりました。

歳出の項目については
もっと詳しく!!
 をご覧ください。



各年度の実質的な収支



19年度は基金(預金)から借入れしなくても、収支を黒字にすることができました

もっと詳しく!!

●性質別にみた歳出

義務的経費である人件費、公債費、扶助費の合計は、借換え分を除いた実質額で前年に比べ約3億円減の110億1,000万円となりました。また、投資的経費である建設事業費は債務負担行為(中学校購入費)の借換えやごみ処理事業(衛生施設センター補修等)減により、前年に比べ約8億円減の15億8,000万円となりました。



毎年の決算を分かりやすく紹介した「いしかりの家計簿」と「石狩市の財政」もホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/citizen/government/zaisei04303.html>

市では、6月と12月に予算および決算の状況をお知らせしています。今回は平成19年度の決算および健全化判断比率と、20年度の予算の上半期執行状況についてお知らせします。
 ※金額は概数としています

平成19年度 特別会計の決算

国民健康保険事業と国民健康保険診療所で赤字決算となりました。

特別会計区分	歳入決算額	歳出決算額	収支額
国民健康保険	71億1千万円	83億7千万円	△12億6千万円
国民健康保険診療所	1億4千万円	1億5千万円	△3百万円
老人保健	63億4千万円	63億1千万円	3千万円
介護保険	34億4千万円	33億1千万円	1億4千万円
介護サービス	9千万円	9千万円	2百万円
個別排水処理施設整備	1千万円	1千万円	1百万円
土地取得	4百万円	4百万円	0円
下水道	21億1千万円	20億7千万円	4千万円
特定環境保全公共下水道	1億2千万円	1億2千万円	0円
簡易水道	2億8千万円	2億8千万円	1百万円

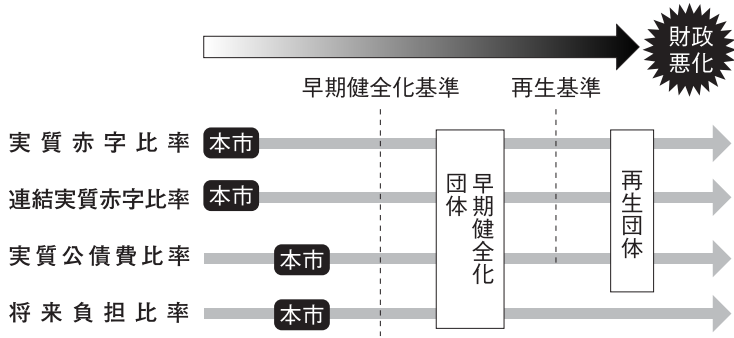
※四捨五入のため、収支額が合わないことがあります

平成19年度 企業会計の決算

水道事業会計	歳入決算額	歳出決算額	収支額
収益的収支	14億円	13億8千万円	2千万円
資本的収支	11億4千万円	14億6千万円	△3億2千万円

※四捨五入のため、収支額が合わないことがあります

平成19年度 健全化判断比率について 基準をクリア!



4 指標	早期健全化基準 (イエローカード)	再生基準 (レッドカード)	石狩市の健全化 判断比率
実質赤字比率	12.7%	20%	該当無し
連結実質赤字比率	17.7%	40%	該当無し
実質公債費比率	25%	35%	14.2%
将来負担比率	350%		174.0%

今後も基準を超えることのないよう、財政再建計画を着実に実施し安定した財政基盤の確立に努めます。

実質赤字比率 → → → **該当無し**
 ・通常の収入に占める普通会計（一般会計と土地取得会計）の赤字額の割合を示すものです。
 ※黒字決算であったため、本比率は該当しませんでした

連結実質赤字比率 → → → **該当無し**
 ・通常の収入に占める普通会計と連結対象特別会計の赤字額の割合を示すものです。
 ※連結ベースでも黒字決算であったため、本比率は該当しませんでした

実質公債費比率 → → → **14.2%**
 ・使いみちが自由な収入に占める借入金の返済額の割合で、普通会計のほかに、特別会計に対する繰出金や一部事務組合に対する負担金などを加えて計算します。
 ・財政力に見合った借入をしているかどうかを判断できます。

将来負担比率 → → → **174.0%**
 ・実質公債費比率が単年度の返済額の割合であるのに対し、この比率は使いみちが自由な収入に占める将来の返済予定額の割合を示しています。
 ・一部事務組合の負担のほかに第三セクターの債務保証や土地開発公社の負債額を含んでいるので、今後の返済額の状況を把握できます。